

## 報道発表資料

[大阪府トップ](#) > [報道発表資料](#) > 詳細

### パーフルオロオクタン酸(PFOA)に係る水質調査結果について(第9報)

代表連  
絡先

環境農林水産部 環境管理室環境  
保全課 化学物質対策グループ  
ダイヤルイン番号:06-6210-9578  
メールアドレス:[kankyonanri-g09@sbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:kankyonanri-g09@sbox.pref.osaka.lg.jp)

提供日	2011年10月5日					
提供時間	14時0分					
	<p>大阪府では、8月にふつ素を含む有機化合物の一種であるパーフルオロオクタン酸(PFOA)について、神崎川水域の河川水及びその周辺の地下水の水質調査を行いましたので、その結果をお知らせします。</p> <p>調査の結果、河川水中のPFOA濃度は、高濃度が確認された平成21年8月よりも低く、同年12月から平成23年5月までの7回の調査結果と同程度であることが確認されました。また、地下水中的PFOA濃度は、昨年度の調査結果と同程度であり、長期的には減少傾向であることが確認されました。</p> <p>府は、2年間の調査結果から、河川水中のPFOA濃度の変動は大きなものではないことが確認されたことから、今後の調査頻度は従前のとおり年1回とし、次回は平成24年8月に調査を行ないます。</p> <p>※PFOAの用途・分解性等については別紙をご覧下さい。</p>					
<b>1. 調査結果</b>						
<b>(1)今回(平成23年8月)の調査結果</b>						
地 点 番 号	地点名	試料採取 日	PFOA濃 度 ( $\mu$ g/L)			
1	安威川流域下水道中央水みらいセンター放流水	H23.8.2	0.25			
2	安威川	安威川流域下水道中央水みらいセンター放流前地点	0.020			
3		安威川流域下水道中央水みらいセンター放流後地点	0.23			
4		新京阪橋	0.11			
5	神崎川	新三國橋	0.12			
6	地下 水	摂津市一津屋 井戸	H23.8.1 13			
7		摂津市南別府町 井戸	13			
※ 分析機関 大阪府環境農林水産総合研究所						
○安威川上流域(調査地点2)のPFOA濃度は、0.020マイクロg/Lであり、平成21年12月から平成23年5月までの7回の調査結果(0.0056から0.011マイクロg/L)と同様に、河川水の調査地点中、最も低い濃度であることが確認されました。						
○安威川、神崎川(調査地点3から5)のPFOA濃度の最大値は、0.23マイクロg/Lであり、平成21年8月の最大値(7.5マイクロg/L)よりも低く、上記の7回の調査における最大値(0.16から1.1マイクロg/L)と同程度であることが確認されました。						
○同水域でPFOAを取り扱っているダイキン工業株式会社淀川製作所からの排水は、公共下水道を経由して、安威川流域下水道中央水みらいセンターから放流されています。その放流水(調査地点1)のPFOA濃度は、0.25マイクロg/Lであり、上記7回の調査結果(0.15から1.2マイクロg/L)と同程度であることが確認されました。						
○地下水(調査地点6及び7)のPFOA濃度は、昨年度の調査結果(17マイクロg/L)と同程度であるこ						

内容	とが確認されました。 ※これまでの調査結果及び調査地点の位置は、それぞれ、別表及び別図をご覧下さい。											
<b>(2)PFOA濃度の変動の状況等</b>												
平成21年12月から平成23年8月までの2年間(8回)の調査結果を基に、PFOA濃度の変動の状況等について、次のとおり取りまとめました。												
地点番号	地点名		PFOA濃度(μg/L)									
			H21.12～H23.8		H21.8							
			最大値	最小値	平均値							
1	安威川流域下水道中央水みらいセンター放流水		1.2	0.15	0.53	—						
2	安威川	安威川流域下水道中央水みらいセンター放流前地点	0.020	0.0056	0.0090	—						
3		安威川流域下水道中央水みらいセンター放流後地点	1.1	0.16	0.48	7.5						
4		新京阪橋	0.27	0.073	0.16	3.3						
5	神崎川	新三國橋	0.16	0.045	0.10	1.0						

○安威川上流域(調査地点2)のPFOA濃度は、調査地点中最も低い濃度であり、その変動(最大値0.020、最小値0.0056、平均値0.0090マイクロg/L)は、平均値の概ね2倍から1／2倍の範囲内にあることが確認されました。

○安威川中央水みらいセンター放流後(調査地点3)のPFOA濃度(最大1.1、最小0.16、平均0.48マイクロg/L)は、いずれも平成21年8月の調査結果(7.5マイクロg/L)よりも低く、河川水の調査地点中最も高い濃度であることが確認されました。

○安威川、神崎川(調査地点4及び5)のPFOA濃度は、いずれも平成21年8月の調査結果(3.3、1.0マイクロg/L)よりも低く、その変動(調査地点4:最大値0.27、最小値0.073、平均値0.16マイクロg/L。調査地点5:最大値0.16、最小値0.045、平均値0.10マイクロg/L)は、平均値の概ね2倍から1／2倍の範囲内にあることが確認されました。

**2. 今後の対応**

○大阪府は、2年間の調査結果から、河川水中のPFOA濃度の変動は大きなものではないことが確認されたことから、今後の調査頻度は従前のとおり年1回とします。なお、調査月については、平成21年8月に高濃度が確認されたことから8月とします。

○ダイキン工業株式会社淀川製作所は、これまで処理後の排水の分析頻度を上げ、処理装置の維持管理を強化するとともに、平成22年度におけるPFOAの取扱量を平成12年度と比べ95%以上削減しています。さらに、同社は、平成24年にはPFOAの取り扱いを全廃する予定としており、それまでの間、排水中のPFOA濃度の監視を継続するとしています。府は、引き続き同社の取組状況を把握するとともに、必要に応じて指導を行ないます。

添付資料	<a href="#">(別表)PFOA調査結果</a> (Excelファイル、116KB)
	<a href="#">(別表)PFOA調査結果</a> (Pdfファイル、72KB)
	<a href="#">(別図)PFOA調査地点図</a> (Wordファイル、389KB)
	<a href="#">(別図)PFOA調査地点図</a> (Pdfファイル、147KB)
	<a href="#">(別紙)PFOAについて</a> (Wordファイル、29KB)
	<a href="#">(別紙)PFOAについて</a> (Pdfファイル、67KB)
資料提供ID	8365